

季刊

ひたすらなるつながり

vol.11

2023年10月

幅広く、奥深い「福祉の仕事」

表紙イラスト atelier minori

コラム〈01〉福祉論壇 経済界とつながる

社会活動家／東京大学特任教授 湯浅誠さん

特集〈02-08〉

福祉の仕事大事典

垣貫宏貴さん、関武志さん

恒松睦美さん、池山紘一さん

田淵千恵子さん、山下完和さん

齋藤誠一さん、山中未緒さん、宮島佳子さん

連載〈09-11〉えにしのたね えにしのめ

みんなの想いをカタチに

合同会社LOCO代表 宮本麻里さん

新・連載〈12-13〉福祉の政策と生活 #01

医療的ケア児者支援

滋賀県健康医療福祉部 長谷川 貴也さん

永井 裕司さん・寛子さん

コラム〈14〉おすすめの映画と本

映画「ぼくたちの哲学教室」他2作

新・連載〈15-16〉わたしとふくしのはなし

地域生活定着支援センター

所長 松田 裕次郎さん

相談支援員 赤澤 慶一さん

相談支援員 吉野 亜矢子さん

連載〈13-14〉県社協レポート

人材センター＋研修センター

寄稿〈22〉しが福祉論壇

子どもは、社会の希望。

子育ては、社会全体の幸福であってほしい。

NPO法人 Moms fun 秋村加代子さん

社会福祉法人 滋賀県社会福祉協議会 広報誌

季刊 ひたすらなるつながり

2023年10月31日発行

通巻11号

発行人 市川 忠稔

〒525-0072 草津市笠山七丁目 8-138

社会福祉法人 滋賀県社会福祉協議会

「福祉の仕事」と聞いて、皆さんはどのような仕事をイメージしますか？高齢者や障害のある人の身の回りのお世話？介護をイメージする方が多いのではないのでしょうか。

しかし、福祉の仕事は一言では表すことができないほど、その分野や職種は多岐にわたり、活躍の場面も多様です。いくつもの職種が重なり合って、人々の「ふだんのくらしのしあわせ」のために仕事をしています。

福祉の仕事にすでに携わっている方も、福祉の仕事あまり知らない方も、「福祉の世界にはこんな仕事もあるんだ！」と新たな気づきを得てもらえたら幸いです。

福祉の業界は、対象者ごとに「高齢」「障害」「児童」「その他生活困窮者等」と一般的に大きく4つの分野に分けられますが、今回は仕事の内容から独自の観点で4つに分類してご紹介します。

福祉の仕事大事典



一人ひとりに向き合い、成長や自立を支える仕事

▶▶ p.03

〈主な職種〉

ケアワーカー(介護職員・介助員)、ホームヘルパー、生活支援員、就労支援員、職業指導員、特別支援教育支援員、児童指導員、保育士 など



困りごとを聴き、支援につなげる相談の仕事

▶▶ p.04

〈主な職種〉

介護支援専門員(ケアマネジャー)、生活相談員、生活指導員、福祉事務所職員、作業指導員、福祉活動専門員、相談支援専門員、母子指導員、児童指導員、ケースワーカー、医療ソーシャルワーカー(MSW)、精神医療ソーシャルワーカー(PSW)、スクールソーシャルワーカー(SSW) など



自己実現や社会参加を支える仕事

▶▶ p.05-p.06

〈主な職種〉

キュレーター(学芸員)、アトリエスタッフ、手話通訳士、要約筆記者、福祉用具プランナー、住環境コーディネーター、ボランティアコーディネーター、セラピスト※、ガイドヘルパー、トラベルサポーターなど
※PT:理学療法士、OT:作業療法士、ST:言語聴覚士・心理職など



福祉を支える仕事は本当に幅広い！

▶▶ p.07-p.08

〈主な職種〉

事務職、栄養士、調理師、送迎運転手、看護師 など

ふくし

福祉論壇

ろんだん



社会活動家／
東京大学特任教授
湯浅 誠さん

経済界とつながる

経済同友会に入会した。日本経団連と並び称される経済団体である。

きっかけは、去年、同会が主宰した「未来選択会議」に呼ばれたことだった。同会に呼ばれることは初めてではないが、久しぶりに出てみて、同会の雰囲気がかつてと違っていると感じた。当時の代表幹事である櫻田氏の基調講演からして、「生活者共創社会」を謳い、NPOを含むあらゆるステークホルダーとの共創を求めるものだった。日本が30年来まともに成長せず、諸外国から完全に遅れをとっているのは、経済界が閉じた世界で考えてきたことにも原因があるといった主張だった。そして日本の再興を図る3つの指標を置き、そのうちの一つは「社会包摂」だとあった。

日本の経済界が社会包摂を謳う日が来るとは…という驚きがあり、同時に、では入会に向けて扉を叩いてみようと思立った。本気じゃないとか、できっこないとか、くさすことはできるが、私自身はこういとき、せっかく同じ方向を向くと言ってくれてるんなら、飛び込んで、何ができるかはわからないが1ミリでも進めてみようと考えたタイプだ。かつて、政府にもそうやって飛び込んで内閣府参与となった。

NPO法人理事長の入会申込ということもあり、ややごたごたしたが、7月に無事に入会を果たした。9月から、いくつかの委員会に顔を出してみる予定だ。まずは、どういう人たちがどういう議論を行なっているのかフィールドワークをしな

いことには、誰と何をどう切り結ぶのかも見えてこない。

福祉が「福祉を越える」と唱えて久しい。しかしなかなか十分には越えられていないように見える。私自身には「福祉の人」というアイデンティティはないが、人と人がつながって、ささえあう包摂的な社会の実現を求める一人として福祉にはがんばってもらいたい。しかし「福祉を越える」と言いながら、どこか「福祉をわかって」と相手の変化を求めているようなフシを感じることがあるのもたしかだ。だが、相手の変化を求めているかぎり、相手は変化しない。そんな操作主義的な願望が通用しないのが人と人の関係だと、相談支援で学んできたのが福祉の人たちのはずだ。だから私自身はこっちから変わっていくことにしている。それもまた「ひたすらなるつながり」だ。

入会の目的は明確だ。力のあるより若い人たちが、どんどん入会できるようにしたい。越境をあたりまえにしたい。私がやってきたような苦労は、10年後にはもうなくていい苦労にしたい。幸い、新浪剛史・新代表幹事の下で、上記の流れはさらに加速しつつある。今の40歳前後の人たちの中には、とても力があって優秀な人たちが大勢いる。その人たちがより広い舞台で力を発揮していけば、もっとずっとよい世の中がつけれるのではないかな。そんな期待がある。



困りごとを聴き、支援につなげる相談の仕事

〈主な職種〉介護支援専門員(ケアマネジャー)、生活相談員、生活指導員、福祉事務所職員、作業指導員、福祉活動専門員、相談支援専門員、母子指導員、児童指導員、ケースワーカー、医療ソーシャルワーカー(MSW)、精神医療ソーシャルワーカー(PSW)、スクールソーシャルワーカー(SSW) など

社会福祉協議会 職員



池山 紘一さん

東近江市社会福祉協議会 相談支援課 係長

- ①大学の専攻が地域福祉で、実習先が社協でした。地域のニーズに合わせて住民さんと一緒に活動をつくり上げていく社協の仕事が魅力を感じました。
- ②本会の相談支援課で地域福祉権利擁護事業をはじめとした相談支援の業務に携わっています。この仕事を通して利用者さんから直接困りごとを聞くようになりました。たとえば、認知症の方の中には、ゴミを出す行為はできても、曜日がわからず出せないということがあり、放っておくとゴミ屋敷になってしまいます。そんな時に、ご近所からの「今日ゴミ出しやで」の声かけで、その方が地域生活を少しでも長く続けていくことができます。制度・サービスの活用だけでなく、地域の多様な人とのつながりや関わりによって、その人らしい暮らしを実現していけるよう心がけています。
- ③他人に自分の気持ちを表出することは勇気があることです。相談の中で本音が聞けた時や、心の壁が低くなったと感じる瞬間は「私のことを受け入れてもらえたのかな」とうれしく思います。相談支援に正解はないですが、相談者や地域の人と一緒に考えていくプロセスが大事であり、そこがこの仕事の面白みだと思います。

スクール ソーシャルワーカー



恒松 睦美さん

草津市立教育研究所 副参事

- ①学校を卒業して福祉とは関係のない仕事に就いていました。結婚後、夫の仕事の関係で一時期アメリカやカナダで生活していたこともあり、帰国後、個人や多様性を尊重する自由な海外の教育環境と比較して、集団行動を重視する日本の教育環境に違和感を覚えました。そこで、2004年に仲間と認可外保育園を、2011年には子育て・教育・家庭問題などの課題に取り組むべく「NPO法人あめんど」を立ち上げました。その後2013年からSSWの仕事を始め、2020年より草津市立教育研究所で働いています。
- ②当研究所に設置する「やまびこ教育相談室」では、不登校対策として「やまびこ教室」も運営しています。草津市内に私含めてSSWが4名いますが、私は7校を担当し、そこで生じるさまざまな子どもの問題に対し、先生・保護者・行政などの皆さんと連携しながら、課題解決に取り組んでいます。相談件数は年間500件を超えます。
- ③私は「関わった保護者や子どもから忘れられてなんぼ!」と思っています。忘れられる=子どもが自立したことを意味しますからね。ただ、毎年何名かは卒業時にわざわざお礼を言いに来ていただき、感慨深いです。大変なこともあります、非常にやりがいのある仕事です!

①福祉に関わるきっかけ ②現在の仕事内容 ③仕事のやりがい

日常生活を送る上で何らかのサポートを必要とする人と直接関わり、その人の成長や自立を支える仕事です。高齢者や障害者の日常生活の自立を支援するサービスを提供したり、子どもたちの保育や療育を行ったり、本人と対面で直接関わってサポートするのがこの仕事です。

介護職や訪問介護員(ホームヘルパー)は一般によく知られていますが、実はそれ以外にもたくさん仕事があり、障害のある方が仕事に就くため・仕事の能力を高めるための指導を行う就労支援員や、子どもの保育や療育に携わる保育士などもここに分類できます。

この仕事に就く方々は、主に高齢者福祉施設、障害者支援施設などの社会福祉施設、老人保健施設や療養型病床などの病院・医療施設、保育所などで働き、本人の生活を支えています。

一人ひとりに向き合い、成長や自立を支える仕事

〈主な職種〉ケアワーカー(介護職員・介助員)、ホームヘルパー、生活支援員、就労支援員、職業指導員、特別支援教育支援員、児童指導員、保育士 など



職業指導員 (パン製造・販売)



関 武志さん

社会福祉法人若竹会 ワークステーションわかたけ

- ①大学卒業後、民間企業に就職し、滋賀県に配属されて営業の仕事に従事していました。働いているうちに、営業目標等に追われるのではなく、もっと人の役に立つようなやりがいのある仕事がないかと思うようになり、福祉の業界を調べてみると、今の若竹会の事業内容に興味がかき、面接を受けました。実際に面接を受けると、職場の雰囲気の良いことも伝わりました。事業方針に共感でき、事業内容も就労移行支援など、人の役に立つような仕事があることもわかって、転職を決めました。
- ②ワークステーションわかたけ(障がい者就労支援施設)で職業指導員として、障害のある利用者の皆さんと、工房でパンの製造・販売を中心として従事しています。施設外では清掃や農作業などに汗を流し、充実した日々を送っています。
- ③一番のやりがいは、やはり私たちが指導した利用者の方が技能を身に付けられ、施設を卒業して企業に就職が決まったときなど、利用者の方の成長を感じられたときですね。また困ったときなどにすぐに相談でき、解決してくれる職場の先輩や上司の存在が大きく、自分自身の将来像を描けることもやりがいにつながっています。

①福祉に関わるきっかけ ②現在の仕事内容 ③仕事のやりがい

保育教諭



垣貫 宏貴さん

社会福祉法人のぞみ会 なないろ子ども園

- ①保育士になったのは、自分自身が出会ってきた保育園や学校の先生の影響が大きいです。自分が保育園のときに担任だった若くてきれいで明るい先生が大好きで、本当に保育園が楽しかったです。また、成長する中で出会った学校の先生たちは、勉強だけでなく、人として大事なことを学校生活の中で伝えてくださる素敵な先生だったので、自然と先生という職業に就きたいと思うようになりました。
- ②保育教諭になって10年目です。4歳児クラスの担任ですが、乳児クラスや他のクラスも手伝います。最近は採用の仕事もするようになり、就職フェアに参加して園の魅力伝えたり、保育コーディネーターとして、若手の先生や実習生をフォローしたりと園のほとんどのことに関わっています。動画編集もできるので、園のPR動画を作成し、YouTubeチャンネルを開設しました。
- ③こうしてさまざまな仕事ができることはやりがいにあふれています。今は、園の中だけでなく、未就学児を対象にした地域イベントの企画や高校・短期大学で出前講座もしています。保育教諭は、笑顔でみんなを幸せにする素敵な仕事だということ伝えていきたいと思っています。

福祉以外の専門分野とも関わって、本人の生活の幅や人生の可能性を広げることに携わる仕事です。

たとえば、障害者の芸術活動・表現活動を支援する仕事があり、創作環境の整備や社会との接点づくりを通して、本人の自己実現をサポートしています。そこから生まれた作品や作者の魅力を社会に発信する展覧会などを企画するキュレーター（学芸員）も福祉とアートを両方理解する特殊な職能です。また、聴覚障害者のための情報保障をサポートする手話通訳者や要約筆記者、身体障害者の外出・旅行支援をしているガイドヘルパーなどは、本人の社会参加を促します。

こうした職に就いている方の中には、事業所に所属せず、プロフェSSIONナルとして働く方もいます。働く方もいます。先に挙げた職種はほんの一例で、他にもセラピストと呼ばれる職種（PT…理学療法士、OT…作業療法士、ST…言語聴覚士、心理職など）やプランナー、ボランティアコーディネーターなど、本人の心や身体の機能、特徴を捉えたうえで、本人の願いに寄り添って支える、さまざまな専門職としての仕事があります。

一人ひとりの「やりたい」「こうしたい」という想いを引き出して、希望を実現する仕事です。



施設長

山下 完和さん 社会福祉法人やまなみ会 やまなみ工房 施設長

①高校生の頃、自分が何をしたいのか考えていた中で福祉に興味を持ったこともないし、ましてや「障害を持った人」たちのことには全く無関心な代表的な一人でした。今の職場で働いていた知人に忘れ物を届けるために初めて施設に入ったとき、利用者の皆さんが自分を歓迎し、瞬時に仲良くしてくれました。そのときに「驚き」とありのままの自分自身を受け入れられているという「喜び」がありました。それから自然と私はその人たちに会うために工房に足を運ぶようになりました。自分自身も「かわいそう」「何かしてあげないと」という障害のイメージを持って働き始めましたが、大切なことを学ばせてもらっているのは自分の方だと感じました。障害のある人は物理的に苦手なことがあっても人格者であり、自分にとって尊敬できる人がやまなみ工房の利用者の方々でした。「彼らと一緒にいたい」「彼らに必要とされる自分自身でありたい」と思ったのがこの仕事をするきっかけです。

②やまなみ工房は障害者多機能型事業所で、障害者の表現・芸術活動に力を入れています。ギャラリーで作品を展示したり、作品集を出したりしていますが、ここは絵を描きたい人や粘土が得意な人が通う場所ではありません。自分が幸せな気持ちになれるミッションを自分で選ぶことのできる場所です。やまなみ工房では、表現するために必要な安心できる時間と空間、信頼関係をつくっています。

私の役割は、ここに勤めるスタッフの皆さんが「ここに勤めてよかった」、ここを利用される利用者の皆さんが「明

日も来たい」と思ってもらえるように居心地よく、安心して穏やかに過ごせる場所や環境を整えることにあります。彼らが持っている「個性・特性」や「得意なこと」が社会で発揮されて、彼らの事を一人でも多くの人に正しく理解してもらうための環境づくりも大切な役割だと思っています。

③「障害とは何か」と考えたときに、普段接する機会の少ない人たちが「どう接すればいいのだろう」と戸惑い、人と人との間に生じる違いが障害になっていくと考えています。人と人が出会って仲良くなっていき、一方的な思い込みや偏見がなくなる、そんな物語に接することができる瞬間が一番うれしいです。やまなみ工房が甲賀市に存在していて、この町の人たちに「自分たちの町にやまなみ工房があってよかった」と思ってもらえるような、いろいろな人の大好きなことが詰まった場所になればいいなと思います。



①福祉に関わるきっかけ ②現在の仕事内容 ③仕事のやりがい

自己実現や社会参加を支える仕事



〈主な職種〉

キュレーター（学芸員）、アトリエスタッフ、手話通訳士、要約筆記者、福祉用具プランナー、住環境コーディネーター、セラピスト※、ボランティアコーディネーター、ガイドヘルパー、トラベルサポーターなど

※セラピスト…理学療法士・作業療法士・言語聴覚士・心理職など

手話通訳士



田淵 千恵子さん 滋賀県健康医療福祉部障害福祉課 専任手話通訳士

①子どもの入学と同時にPTAの役員に当たってしまい、正直、渋々会議に出て行事を企画していました。ところが、この行事に参加した聞こえないお母さんとの出会いが私の人生を大きく変えることになりました。手話というものを目にしたこともない私でしたが、彼女とコミュニケーションを取りたいという気持ちで仲良くなるのと同じ速度で手話そのものにも魅せられていきました。

②手話通訳は『人と人をつなぐ仕事』と思っています。実際、通訳現場を見ると聞こえない人と手話のわからない人の間をただ言語変換しているように見えるでしょうし、残念なことに、聞こえない人を援助している人と思われることもあります。たしかに、手話通訳はろう者に伝える仕事ではありますが、最近ではむしろ「聞こえる人（手話がわからない話者）のために手話言語を駆使してろう者に伝える仕事です」といろいろな場面で話すようにしています。また、『（聴者とろう者の）文化をつなぐ仕事』とも思っています。日本の聴者には表情は出さず、空気で状況をつかむ察しの文化がありますが、ろう者は真逆です。具体的かつ表情豊かに感情を伝えないと伝わりません。その文化の差がやり取りの中で大きなズレを生じさせることもあります。そのズレを解消する仕事と自負しています。

③私には生きがいとも言える大切にしていることが2つあります。ひとつ目は、聴者とろう者のコミュニケーションの邪魔をしないこと。コミュニケーションはできるだけ直接取ってほしいので、そのお手伝いをします。聴者にはマスクを外し『こんにちは！』と、口形を見せたり視線を合わすことが大切であることや、ろう者にも身ぶりや表情で伝わることもあるよと伝えています。ただ、情報保障は違います。音声言語を手話言語に正しく変換して、伝える相手のチャンネルにしっかり合わせて、聴者と情報格差が生じないように『伝えたか』ではなく、『伝わったか』を大切にしながら、ときに冷や汗をかいています（笑）ふたつ目は『聴者と同じタイミングで笑ってほしい』という思いです。通訳が伝わらず、ろう者だけが笑えずにいることのないように。会場のろう者がどこに座っているのが見えなくなることが最高の喜びです。



！ 運営管理の仕事 ！

ほぼすべての社会福祉施設で、経理や庶務など、利用者の方との関わりは少ないものの、施設を支える事務の仕事に従事している方もいます。経理では地方自治体への運営費の請求、財務管理、職員の給与事務などの業務があります。また、庶務では文書の作成、発信・授受、労務管理、施設設備の維持管理など、業務内容は多岐にわたります。

事務職

宮島 佳子さん
社会福祉法人真盛園



①40歳後半からの転職で、前職が福祉関係（県社協）だったので、できれば福祉の関係が良いと思っていたときに、事務職のお話をいただき、即決しました。採用されたばかりの頃は、前園長の運転手や秘書的なことをやったりしていました（笑）

②特別養護老人ホームや養護老人ホーム利用者の利用料や措置費の請求事務をしています。前職で培ったパソコンスキルもあるので、現場の職員からは頼られています。他には消耗品の手配をしたり、必要な研修受講の申込や受講料の入金をしたり、送迎をしたりなど、幅広い業務をこなしています。

③施設が西教寺の敷地にあるので、四季を感じる行事も多く、行事のときには現場職員の手伝いもしています。利用者さんが私の顔を覚えてくださり、施設内で見かけたときに喜んで声をかけてくださることも増え、うれしくて毎日仕事に行くのが楽しみになりました。また、職員仲間で太鼓クラブの活動もしています。園の行事や地域のイベントで披露しています。事務だけでなく、現場から頼っていただきたり、利用者や地域の方にも喜んでもらえたりするのがうれしく、やりがいにつながっています。



！ 食にまつわる仕事 ！

どんな分野の社会福祉施設でも、栄養士や調理員などのスタッフが配置されていることはよくあります。利用者一人ひとりの健康状態、障害の状況などに合わせて、栄養と彩りある食生活を支えています。献立の作成や食材の発注、調理員に対する栄養に関する知識向上の指導、給食施設の衛生管理、利用者の食生活の改善や指導にあたります。

栄養士・調理師

山中 未緒さん
社会福祉法人甲賀学園 児童養護施設鹿深の家



①食えることが好きだったので栄養士を目指しました。最近では業者に委託している福祉施設もありますが、献立を立てたかったので、食事を直営でつくっている施設に就職しました。

②献立、調理、食育など子どもたちの食全般に関わっています。給食日より作成して、料理の情報を子どもたちに伝えています。鹿深の家には、4つのホームがあり、より家庭的な雰囲気の中で食事をしています。材料に鶏肉を準備しても、ホームごとに職員が調理するので、唐揚げや照り焼き、塩焼きなど、できる料理に違いがあってもいいです。調理方法次第で子どもが苦手な食材を克服できることもあるので、ホーム職員との会話を通じて、私自身勉強させていただいています。

③子どもが厨房に食材を取りに来るときに話をしたり、アンケートを取ったり、できる限り献立のリクエストに応えるようにしています。お刺身や海鮮丼のほか、最近ではSNSで見た料理をリクエストされることも。施設にいると外食に行くことも少ないので、いろいろな食材や料理にふれてほしいという思いで、子どもの「これ食べたい！」を大事にしています。



！ 総合的な仕事 ！

たとえば救護施設は、生活保護法にもとづく保護施設のうち、経済的な問題も含め、日常生活を営むことが困難な要保護者が生活扶助を受ける入所施設です。障害の有無や高齢か否かに関わらず、多様な入所者の生活全般を、さまざまな職種の連携によりサポートします。これまでに紹介した仕事を網羅するような総合的なスキルが求められます。

救護施設職員

齋藤 誠一さん
社会福祉法人グロー 救護施設ひのたに園 園長



①大学進学の時点を福祉を選択していました。最初は児童福祉に関心があったのですが、大学4年生で障害者のグループホームを見学に行ったときに、関わる人や環境次第で障害のある方がいきいき過ごしている様子を見て障害福祉に関心を持ちました。私の出身地（北海道）では当時、親亡き後は入所施設に頼るしかない環境でしたが、滋賀県では地域で豊かな暮らしを継続できる先駆的な制度や仕組みが整っていると聞き、滋賀の福祉業界に飛び込みました。

②救護施設はかつて障害や高齢の方の入所がほとんどでしたが、近年、特にコロナ禍以降は家をなくした若い方が急に入所されるケースが増えました。今までの知識や経験では対処しきれないこともあり、対応を常に改善していくことが園長としての主な仕事だと考えています。

③自分たちの実践によって世の中や地域が変わっていく感覚が得られたときにやりがいを感じます。今は、生活保護に対する偏見などから公的な支援を受けず、貧困の連鎖に陥っている人がいます。その状況を解消するために、まずはひのたに園や「つどえば」の取り組みを充実させ、多くの人に知ってもらいたいと思っています。



地域の居場所づくりを目的に2023年2月に開所した「つどえば」外観

福祉の仕事は 本当に幅広い！

〈主な職種〉
事務職、栄養士、調理師、送迎運転手、看護師 など

福祉の仕事は非常に幅広く、施設特性によっては多職種が常に連携して1人の利用者を支える現場もあります。また、本人と直接関わるのではなく、利用者はもちろん支援や相談にあたる職員を支える仕事もあります。今回はその一部を紹介しますが、それぞれが福祉を支えるとても大切な仕事です。



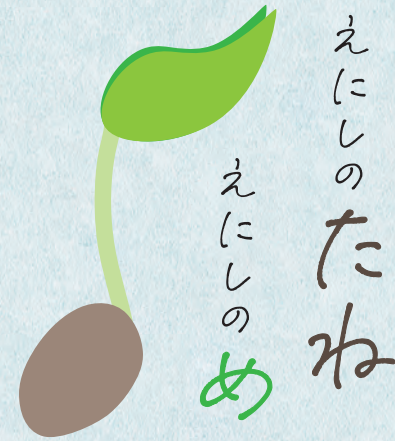
①福祉に関わるきっかけ ②現在の仕事内容 ③仕事のやりがい

みんなの想いをカタチに

合同会社LOCO 代表 宮本 麻里さん



居場所がほしい親子や働きたいお母さんがふらっと寄れて、暮らしの困りごとの相談もできる場所が、長浜市の駅前にあります。カフェやリビングスペースを備えた子育て応援カフェLOCO。長浜市民の「あったらいいな」の気持ちに応えて生まれ、進化を続けています。



福祉現場の気づきから実践へ

現行の制度で解決できない生活課題、地域の福祉課題に気づいた「滋賀の福祉人」たちが、課題解決に向けて実践しているさまざまな取り組みをご紹介します。

「LOCO」は
ハワイの言葉で
「地元」を意味します



LOCO誕生のきっかけとなったのは、運営する合同会社LOCO代表の宮本麻里さんが余呉地区で子育てサークルに参加していたときに聞いた母親らの声でした。「サークルは、時間が決まっっていて、ご飯も食べられない。子育て中じゃない人も使う場所だから遠慮してしまう。ふらっと行ける場所がほしいね」という気持ちを聞いて、なんとかできないかと。調べたけれど、みんなが望んでいるような場所は近くにない。そこで宮本さんは、副代表の桐畑裕子さんと一緒に「ないならつくろう」と立ち上がったのです。

まず考えたのは、「余呉以外の地域の人たちは、どう思っているのかな」ということでした。広く声を聴くべく、長浜の母親100人にアンケートをとりました。「みんな同じようなことを思っていて、『絶対つくってほしい』という心のこもったメッセージももらって、絶対にやり

「最初の一步」になれる場所を…
自分サイズで小さく始める

たい、やれる、という確かな力になっていきました」。こうして、子連れで集えるカフェを自治会館にオープンさせました。2015年のことです。

当時のキャッチフレーズは、「エンジョイ・マミーマイライフ」。お母さんであることを幸せに思っただけ、というメッセージを込めたのです。「育児中のひきこもりや産後うつなどの悩みを聞く中で、子育てを楽しいなと感じられる一つのきっかけになってほしいという思いがありました。最初の一步って、なかなか踏み出せない。その一步が、『LOCOに行ってみよう』だったらいえな、と」

こだわったのは、「自分サイズ」でやること。子育てしながらでも無理なくできるように、週3回から始めました。2年間続け、場所も駐車場も手狭に感じて、2017年に広いスペースに移転。さらにその2年後に、現在の駅前に移ってきたのです。

滋賀の
福祉業界に
来てねー



すぐの就職は考えていないけれど、家族や自分のために福祉や介護の仕事についてちょっと知識を得たいという人向けの講座もあってとても身近なセンターです。



就職を希望する本人だけでなく、学生を送り出す教員や就職担当者、保護者向けの説明会やミニ講座もオーダーメイドで企画してくれて大変ありがたいです。



職場体験や
(インターンシップ)
施設見学が
したい！



福祉現場で働く職員が学生に業界の魅力を伝える
高校や大学での「ふく・楽CAFE」(p.20で紹介)



福祉現場で働く職員から
直接話が聞ける「職場説明会」



介護の知識や技術の基本が学べる
「入門的研修」

高校や大学で福祉を学び、その中で自分は障害分野で仕事をしたいと思っ、社会福祉法人に入職した人。

製造やサービス、金融などの民間企業で遮二無二働いて自分を見失いかけていた時、高齢者のゆったりとした日常に寄り添い、人の笑顔を大事にする介護の仕事をした、と福祉業界に飛び込んだ人。

滋賀の福祉で現場でいきいきと働く人の声を聴いてみると、福祉分野で働く中で人との出会いがあり、自分を高めようと学ぶことで仲間ができ、「福祉とともに私らしく生きる」ことをわかち合える大切な人とのつながりの中にいることを実感します。

また、先輩の話を聴いた若い人たちからは「福祉の仕事ってカッコいいな」という声も聞こえてきます。カッコいいのは、現場のリアルティに向き合うプロとしての姿勢、それを伝える言葉、そして何より人間としての魅力が伝わってくるからです。

あなたも「滋賀の福祉」業界で楽しく生きる仲間になりませんか？

お問い合わせ

土日祝定休 [くさつセンター]
〒525-0032 草津市大路1丁目1-1
ガーデンシティ草津・エルティ932 3階
TEL 077-567-3925 / FAX 077-567-3928
✉ jinzai@shigashakyo.jp

[ひこねセンター] 月日祝定休
〒522-0074 彦根市大東町2-28
アル・プラザ彦根4階 コーポータウン内
TEL 077-567-3925 / FAX 077-567-3928
✉ kohoku-jinzai@shigashakyo.jp



働くママたちの作業スペース

母親の「働く」を軸に、少しずつ事業を展開 再就職だけでないスキルを活かすマッチング

子育てカフェから始まった
LOCOですが、母親の「働く」
を支える事業に力を入れていく
ことになりました。「子どもを産ん
だあと再就職したいとか、自分
で起業したいかと思って、ど
こに相談すればいいのかわから
ないお母さんがとても多かつ
た」。いきなり行政の窓口に行く
のはハードルが高く、なじみの
ない団体のサービスを利用する
のもドキドキする、という声が
寄せられたのです。「気軽に相談
できるところもないことがわか
り、力になりたいと思うようにな
りました」。それは、カフェに
集う母親らの声に耳を傾ける中
で生まれた気づきでした。

「じゃあどんなものがあつた
らいいか」とヒアリングを続け
る一方で、行政やハローワーク、
企業との協働に向けて準備を進
めました。そして、セミナーや交
流会を開催したり、マザーズ
ジョブステーションの出張相談
を実施したり、働きたい母親と

企業とのマッチングに取り組ん
だり、さまざまな事業が生まれ
ていきました。

母親と企業とのマッチングは、
企業側からも好評です。「企業さ
んも、人材不足で困っている。単
に人手が足りないケースと、ス
キルが足りないケース。どちら
にも対応しています」。企業も
LOCOを頼りにしています。
「チラシをつくれる人」「デジタ
ルスキルのある人」など、スキル
のある人を求めているけれど、
どこにいるのかわからない企業
からは、「仕事をお願いしたい」
とLOCOに連絡がきます。「そ
こをつないで、企業にとつての
課題解決にもなればと思いま
す」

さらに、スキルを生かしたい
母親とLOCO、企業がチーム
になって仕事をしていく「チー
ムワークプロジェクト」も始め
ました。LOCOが企業から仕
事の相談を受け、登録している
母親らの中でスキルを生かせそ

うな人と一緒に取り組んでいく
スタイルです。LOCOが間に
入るため、お母さんたちは企業
とのやり取りの必要もなく、気
兼ねなく働けて、企業側も
LOCOに要望を伝えればいい
ので安心です。

「経験があつて、スキルの高い
お母さんもたくさんいます。で
も、子育て、介護、家庭のことな
ど自分以外の要因で、企業への
就職は難しい場合がある。そう
いう人たちにも仕事を提供した
くて」

特別なスキルが必要な仕事か
ら、内職的な仕事まで、さまざま
な依頼を受注しています。「みな
なが喜んでくれて、私もうれし
い」と、宮本さんはやりがいを感じ
ています。



就労相談などを行う個室スペース



『みんなのあつたらいいなあをカタチに』 みんなが悩みながら足を運ぶ地域の真ん中

現在の場所に移ったのは、
2019年。そのときから、コ
ンセプトを「みんなの暮らし
『あつたらいいなあ』をカタチ
に」へと変えました。「みんなに
事情があるし、みんなの思うこ
とを形にするのが、自分たちの
役割」と気づいたからです。

いろいろな人の声に耳を傾
け、ちょうどいいサイズⅡ自分
サイズで、少しずつ事業を増や
してきたLOCO。シニアの居
場所づくりや、若者食堂にも取
り組んでいます。

「シニアの人たちからは、地
域のサロンは距離が近すぎて、
みんな顔を知っているし、なか
なか本音を言いくいって声
があつて。たしかにそうだなと
でもここなら気軽に集えると
言ってもらっています」。人生
自体が楽しく、いきいきできる
空間になるように心がけてい
ます。

若者食堂は、以前は夜に開い
ていましたが、スタッフの負担

を考えて学校の試験期間中の
昼間の開催に変えました。「誰
も無理しない」というのが、
LOCOのモットーです。

助けを必要としている人の
ところに、サポートできる人を
つなぐ。市民と行政や企業の間
に入って、「真ん中」にいる。
LOCOの立ち位置が、ようや
く見えてきたと、宮本さんは言
います。

「誰かと一緒に考えて、誰か
の悩みごとが解決されていく。
みんなの望みが、みんなの力で、
すごい速度で形になっていく。
その真ん中にLOCOがいる
ことが喜びで、すごく自分たち
に合っている」。宮本さんは、そ
う感じています。

みんなが悩みながら足を運
ぶLOCO。集う人たちは、泣
いたり笑ったり、忙しい。「でも、
そういう状態で駆け込んだも
らえる場所であることが、何よ
りうれしい」

今後の具体的なビジョンは、



LOCO Kitchen外観

宮本さんの頭にはありません。
「必要とされることは日々変
わっていきます。これから何を
していくかは決まっていな
いけれど、あえて言うなら、ど
んときも『LOCO』としてこ
の場所であり続けたい、とい
うことかな」

そして、宮本さんが願うのは、
LOCOのような場所がいろ
いろな地域に増えていくこと
です。ほかの地域からの視察も
絶えません。話を聞く中で、
「あり続ける」ことの大切さと
難しさを感じると言います。

「LOCOの仕組みや思いをど
んどん伝えていきたい。知って
もらって、それぞれの地域で、
その地域らしい取り組みが進み、
継続してもらえたらいいですね」



生活の中で人工呼吸器による呼吸管理、喀痰吸引その他の医療行為を恒常的に必要とする医療的ケア児者については、医療技術の進歩によりその数が増加しています。医療的ケア児に限っても平成17(2005)年から平成30(2018)年までの15年間に全国で2倍という増加率です。加えてそれぞれが心身の状況に応じた適切な支援を受けられることが重要な課題となり、医療的ケア児の健やかな成長とその家族の離職の防止、安心して子どもを生み育てることができる社会の実現を目的に令和3(2021)年9月に「医療的ケア児及びその家族に対する支援に関する法律」が施行されています。

福祉の政策と生活

Welfare policy and life



障害のある子と、その家族

永井 裕司さん・寛子さん

現在、私たち夫婦と、医療的ケアが必要な9歳の長女、次女と猫3匹で暮らしています。長女の病気は、先天性中枢性換気症候群^{※1}。症状が重く、起きているときにも呼吸器装着が必要なレベルです。現段階で有効な治療法はなく、一生病気と付き合わなければなりません。患者数は県内でも数えるほどで、病気を知らされた直後は情報交換をする仲間が少ないことが悩みでした。

自分たちが医療的ケア児を育てることになるとは思ってもおらず、生後2ヶ月で病気の宣告がされ、有効な治療法がないことを知った時には絶望感に襲われました。今まで障害と向き合う機会がなかったこともあり、不安で押しつぶされそうでした。

出産後、NICU(新生児集中治療室)から一般小児病棟へ移ったのち、退院。在宅医療

医療的ケア児者支援にかかる滋賀県の動向と施策について

本県では、糸賀一雄氏による「この子らを世の光に」の理念のもと、西日本で最初の医療と教育の機能を持つ重症心身障害児施設「びわこ学園」が開設されるなど、現在のように医療技術が発達せず、福祉制度も整備されていない頃からさまざまな試行による重症心身障害児者の生活の支援や「重症心身障害者ケアマネジメント支援事業」に至る重症心身障害児者の地域包括支援ネットワークの形成が進められてきました。

また、令和元年(2019)度に県内に在宅で生活する18歳未満の医療的ケア児を対象に実態調査を実施し、287人から回答がありました。調査の中で本人と家族の困りごととして多く寄せられた「一時的に預かってくれるサービス(レスパイト)の不足」について、令和4(2022)年度から「医療的ケア児者対応事業所開設促進事業」を実施し、医療型短期入所などの増設を目的に、新規法人に対する事業提案から医療的ケアの講習会、開設まで

のアフターフォローなどを行っています。

本年4月には、法に基づき「滋賀県重症心身障害児者・医療的ケア児等支援センター」の設置、運営を開始したところです。本センターの役割は、重症心身障害児者、医療的ケア児の支援にかかるワンストップの相談や支援者への情報提供、研修業務、各関係機関のネットワークの形成など、県の重症心身障害児者・医療的ケア児者支援の核となることが期待されています。センターへの相談においては、高齢になつてはじめて要医療的ケアとなったケースや、学校行事や進路にかかる内容など分野を超えた課題も出てきています。

本県の重症心身障害児者・医療的ケア児者とその家族が身近な地域で安心して生活できる社会となるよう、センターの開設を契機に、改めて実態把握を進めながら、関係者の皆様とともにさらなる施策・体制の充実に取り組んでまいります。

長谷川 貴也(滋賀県健康医療福祉部障害福祉課長)

がスタートしました。自分たちのミスで我が子を死なせてしまう可能性があり、慣れない医療ケアにプレッシャーを感じていましたが、訪問看護などのサービスも利用しながら何とかやってきました。

在宅医療を始めて1年半が経過し、徐々に医療ケアに慣れてきたところで市が運営する療育施設に入園しました。この時まで悩みを相談できる存在は皆無でしたが、ここで出会った方々とは今もつながることができています。病気や症状はさまざまですが、マインリテイの子どもを育てる親として気軽に話せる存在はとてもありがたかったです。

その後、長女は地域の保育園に入園し、健常児に囲まれて過ごしました。「みんなと同じことを同じようにさせた」という私たちの気持ちにくんでいただき、長女は運動

会やお遊戯会などのさまざまな行事に参加しました。保育園の年中になると地域の小学校が特別支援学校、どちらに行くか選択しなければなりませんでしたが、長女の意志も考慮して地域の小学校への進学を決めました。そこで驚いたのは子どもたちの適応能力。早々に病気の特徴や呼吸器に慣れ、支援級に遊びに来たり、手紙を書いたりしてくれる子ども们いました。

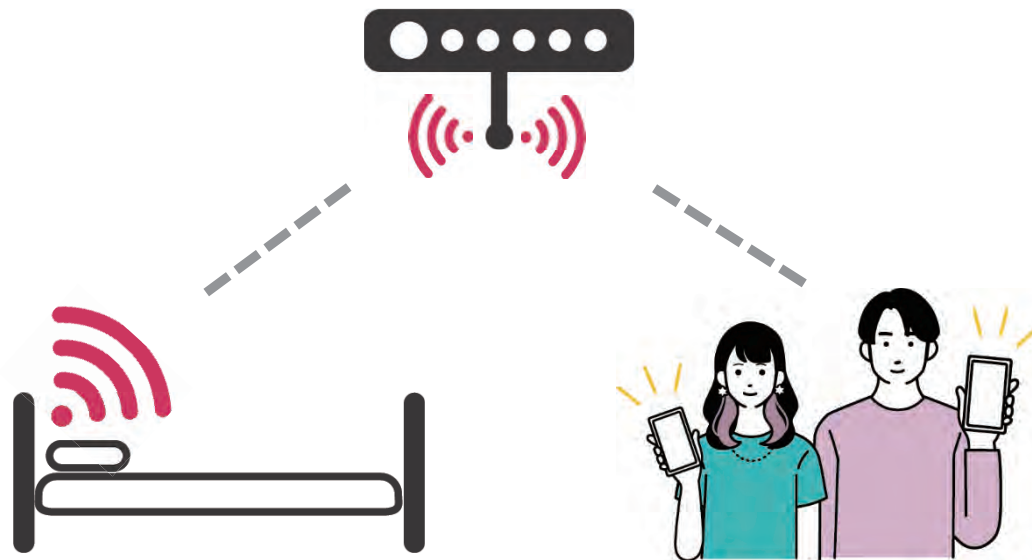
今現在苦労していることは、通学などで常時使用できる移動支援がないこと。医療物品など携帯するものが多く移動には苦労を要しますが、医療的ケアが必要なため看護師がついていなければ送迎サービスを利用できず、どうしても利用できるサービスが限られてしまいます。また、生活圏内には利用できる放課後等デイサービスがほとんどありません。

ん。重症心身障害児であれば受け入れ可能けれども、動ける医療的ケア児は受け入れできない制約があり、課題の一つととらえています。

最後に私たちがお伝えしたいこと。それは、障害を抱えている人のことをもっとよく知ってほしいということです。周りをよく見渡せば、皆さんの身近でも何らかの障害を抱えている方が必ずいると思います。その方に対して少しでも興味を抱き、寄り添う気持ちを持つてほしい。こうした想いが、障害のある方が生きやすい世の中をつくっていくのだと思います。また、親(リケアをする家族自身)の人生を豊かにするために、行政や医療的コーディネーターの力がこれからますます必要になってきます。皆さんの力をお借りして、少しでも良い世の中をつくっていききたいと思っています。

※1 先天性中枢性換気症候群(CHS)とは…呼吸中枢の先天的な障害により、主に睡眠時に、重症例では覚醒時にも低換気をきたす遺伝子疾患。有効な治療法はなく、成長によって改善しない永続性のものである。適切な呼吸管理により、全身臓器への影響を最小限にとどめ、患者のQOLや予後改善において最も重要とされる。1970年に初めて報告された比較的新しい疾患で、5〜20万人に1人とされており、厚生労働大臣が定める小児慢性特定疾病に指定されている。

くら
しつ
なぐ
 ひと
をつ
なぐ
 ちい
きつ
なぐ



テクノロジーの進化を背景に、介護現場では大きな変革が起きつつあります。
 プライバシーの確保を基本としながら、
 センサーで体調悪化の予兆を早期にキャッチしたり、
 転倒などの事故を防止するなど、最新技術の試行が始まっています。
 必要とされるテクノロジーを積極的に取り入れ、
 利用者の暮らしをよくするチャレンジを当会は続けていきます。

 当会は、養護老人ホームやケアハウス、特養など高齢者施設等を経営する
 滋賀県内 97 の高齢者施設で組織し、県民の暮らしを支えています。



事務局
 〒525-0072
 滋賀県草津市笠山 7 丁目 8-138 県立長寿社会福祉センター内
 一般社団法人 滋賀県老人福祉施設協議会
 TEL. 077-585-9380 FAX. 077-585-9381
 Email shiroukyo@shiga-roushikyo.jp http://www.shiga-roushikyo.jp/



Recommended Movies & Books おすすめの映画と本



ぼくたちの哲学教室

へ
あ
ら
す
じ

北アイルランドのある小学校では「哲学」の授業がある。エルヴィス・プレスリーをこよなく愛するケヴィン校長は「どんな意見にも価値がある」と小さな彼らと向き合い伝える。子どもたちは異なる意見に耳を傾けながら、自分の考えを整理し、言葉にしていく。哲学を通して子どもたちの生きる力を育むドキュメンタリー。

「やられたら、やりかえす？それでいいの？」暴力に対して、こんな問いをされたあなたならなんて答えますか？対立の爪痕と記憶を残し「平和の壁」に分断された街、北アイルランド・ベルファスト。不安定で不透明な世界を生きる、子どもたちとケヴィン校長の「対話」の授業と日常が、プレスリーの着信音とともに丁寧に描かれています。授業に集中できない子、けんかを繰り返す子、先生たちは一人一人に向き合い常に共感を示し、対話を持ちかける。“考えること”って、子どもたちにとっても、私たちにとっても大切なこと。あなたはこの映画を見て何を感じ、考えますか？哲学の魅力に触れ、力に気づくことができる映画です。



「ぼくたちの哲学教室」2021年製作／102分／
 原題：Young Plato／配給：doodler／
 2023年5月27日劇場公開>>全国順次ロードショー



ラブカは静かに弓を持つ

著者：安壇美緒／出版社：集英社

<あらすじ>

著作権管理団体に働く橘樹。著作権侵害の証拠をつかむため、大手音楽教室への潜入捜査を命じられる。チェロ講師の浅葉や教室に通う仲間との交流から、内向的な橘も少しずつ心を開いていくが、同時に周囲を欺く潜入捜査への葛藤に苦しむ。捜査期限はせまり…



自分の性格では特別な人間関係なんて築けないし、ただレッスンに通うだけで大した仕事じゃないだろう、と思っていた橘の心が徐々に溶かされていく様子には心が動かされます。しかし、2年間の潜入期間が終われば、そのすべてが崩れてしまう。潜入期間の終わりを恐れる橘の心情に同調するように、読んでいる自分も段々とページをめくるのが怖くなっていきます。「信頼を育てるのが時間なのだとしたら、壊れた信頼を修復させるのもまた時間」という言葉が印象に残りました。



大震災自閉っこ家族のサバイバル

著者：高橋みかわ／出版社：ぶどう社

<あらすじ>

大地震、大津波、ライフラインが止まった…そのとき、なにが起きたのか、人々はどうしたのか。宮城で被災した自閉っこのママたちがあの日、家族になにが起きたのか家族はどうやって生きのびたのかその体験をリアルに綴る。



東日本大震災の不安と混乱の渦中における自閉症をもつ子どもたちと家族の生活が記されています。著者の高橋さんは、現在に至るまで長年にわたってブログを更新されており、震災当時もブログのコメント欄などで励まし合って過ごされていたとのこと。この本は、震災後に「伝えたい」「残したい」「次につなげたい」という願いを込めて2011年7月に出版されました。お子さんの特性に寄り添いながら、家族で協力して震災を乗り越えられる様子をブログ調でとてもわかりやすく書かれています。

わたし ふくしの はなし

地域生活定着支援センター とは...

社会には、本来福祉サービスが必要であるにもかかわらず、見過ごされてきた高齢者や障害者が大勢います。そうした人たちの中には、生活困窮などを理由に止むに止まれず事件を起こし、刑務所や少年院などで受刑する人も少なくありません。また、退所後の受け入れ先がなく、自力で必要な福祉サービスにたどり着けないことが多いため、万引きなどの再犯で、刑務所へ戻るリスクが高くなることがわかっています。

そこで、2009年度から厚生労働省は高齢や障害により福祉的な支援を必要とする出所者のために、帰宅先の調整や必要な福祉サービスの手続き等を行う「地域生活定着支援センター」を各都道府県に設置しました。地域生活定着支援センターは保護観察所と協働して事業の実施にあたっています。

地域生活定着支援センターの主な業務

福祉的な支援を必要とする高齢または障害者(疑いを含む)への支援を行います。

【ア】出所後の帰宅地を調整する支援(コーディネート)、その後の定着支援(フォローアップ)

【イ】出所者等への福祉サービス等についての相談支援

【ウ】地域のネットワーク構築と連携促進、情報発信

福祉に関わる方が
どのような想いを持っているのか。

このコーナーでは、普段なかなか聞けない声^シ、届かない声^シに
焦点を当て、さまざまな立場から
福祉に関わられている方の
想いを伝えていきます。

今号は、福祉的な支援を必要とする
高齢者や障害者の矯正施設出所者や
被疑者などの支援をおこなう
滋賀県地域生活定着支援センター^の
職員の方々にインタビューしました。

滋賀県地域生活定着支援センター

所長 松田 裕次郎さん

滋賀県地域生活定着支援センターは、現在滋賀県から委託を受けて社会福祉法人グロー(GLOW)が運営しています。

当センターは地域で落ち着いて生活できるまでの案内役だと思っています。私たちの力で再犯が防止できるわけではない。アセスメントはしますが、地域の中でこの人をどう支えていけばいいのかを考えていくことになります。

どこにも行き場がなく、孤立し、再犯して刑務所に行くことが自分の居場所を確保できる方法になっている人は「こんな生活をするくらいなら刑務所の方がましだ」と思ってしまいます。でも、そうはさせないし、そこまでのどり着かないように支援するのが私たちの仕事です。

地域に帰った人の問題行動が出ないようにするのは、支援チームや地域の人の力です。困ったときには、地域からセンターに相談があり、その時に生育歴を伝えたり、アドバイスしたりします。「この人の支援は難しい」と、地域にあきらめさせないことが、私たちの大事な役割だと思っています。

相談支援員 吉野 亜矢子さん

矯正施設から出る人を支援する場合、まず施設に出向いて会いに行きます。これまでどんな生活を送ってきたか、社会に戻ったらどうしたいかをたくさん聴き、一緒に考えます。関係づくりから始まり、必要な支援をアセスメントします。

センターだけでは何もできないので、その人が帰りたい地域の人たちと応援団をつくり、つないでいきます。「今度こういう人が帰ってこられるので、これからの生活を一緒に考えてほしい」と伝えるところからスタートです。

刑務所から出てくる人となる、「悪いことをした人」というイメージが先行し「怖い」というイメージを持たれることもあります。私も、実際センターに配属されるまではそう思っていたのですが、事件の背景を知ると、しんどい思いを抱えていた人が多く、見方が変わりました。幼少期に虐待を受けたり、障害があつて生きづらさを抱えていたり。そういう実態を、地域の支援者にも伝えたいと思っています。

印象的だったのは、薬物やアルコールなどの依存症がある方のケースです。何度も刑務所に入り、帰る場所がなく、出てもすぐに再犯してしまう。一度相談があり、すぐに取り下げられてつながれなかったのですが、ある日再び「困っている」と相談がありました。その日から約2年、刑務所に行かずに頑張っておられます。依存症治療プログラムを受け「応援されている」「自覚が生まれたそうです。悪いつながりを自ら断ち、安定して過ごされています。

過去の人生で傷つき、誰にも相談できず、結果的に罪を犯してしまった人が本当に多いと実感します。人とのつながりを求めて、昔の悪い仲間とつながり、再犯にいたる場合もあります。私たちのセンターがどんな活動をしているか、知られていない現状があるので、まずは知ってもらいたい。また、その人の表面的な部分だけでなく、背景も含めて見てほしい。どうしてもそんなことをしてしまったんだらう、と考えを巡らせてもらえたらうれしいです。

相談支援員 赤澤 慶一さん

事件を起こしたことにフォーカスされ、「加害者の支援をするところですね」と言われるのですが、事件を起こすに至った背景を考えることが職務で、大前提は困っている人の支援です。また、罪を犯した人が帰る「箱」(＝施設など)を探すというよりも、人とのつながりを調整しています。

お金があるのに窃盗する人もいます。お金に困窮しているように見えても、掘り下げてみると多くのケースは人とのつながりに飢えています。精神を患い「逮捕してもらおうと思つて」無銭飲食する人もいます。「こんなことはしたくないけど他に方法がなかった」と言い、その人なりのSOSだったと知ったときは、衝撃でした。

生活保護受給の相談に行つても「困つた」とうまく伝えられなくて支援を受けられず、お腹が減っていたのでその足でお弁当を盗んだ人もあります。「困つた」と話せたなら、きっとそうはならなかった。私たちが一緒にいくと伝わることもあります。

人とながつていだけで、犯罪をしなくてすむ人はたくさんいる。そういう気づきを共有できる人を増やしていきます。

センターには、つながりたいときにつながってもらい、面談に来なくなったとしても、また半年後に来てくれたら「久しぶりですね」と迎える。途切れずに細くつながることを大事にしています。そして、相談事業所や訪問看護、ヘルパー、権利擁護や社協、自治体の生活保護課、障害福祉課、病院のケースワーカーや医師……。本人がつかみたい糸をつかんでもらえるように、つながりの糸をたくさん準備します。定期的に会う人たちが増えれば、気持ちをキャッチする機会も増えます。

事件だけに着目すると困難ケースに思えても、表情も言葉も活気がなくてうまくコミュニケーションできない人が、多くの人に応援され、つながりをもつことで変わっていく。生活が豊かになるって、こんなにも人を変えるんだなと実感しています。

県社協レポート

滋賀県社会福祉協議会では「ひたすらなるつながり」の理念のもと、福祉関係者や地域みなさんとともに、さまざまな事業を実施しています。このコーナーでは本会の取り組みや職員の思いを紹介します。

(レポーター：滋賀県社会福祉研修センター 小山泰輝)



チーム対抗ゲームの様子

滋賀の福祉人研修

ふく・楽CAFE

人材センター＋研修センター

ふく・楽CAFEは、高校生や大学生など福祉の仕事に関心のある方と現場でイキイキ働く福祉人との出会いの場です。「ふくしの仕事と楽しく生きる」をコンセプトに、滋賀県介護・福祉人材センターが実施してきました。福祉の仕事の楽しさや奥深さなどを知ることができ、福祉への興味をより深める場となっています。カフェのようなリラックスした雰囲気に参加できることが大きな特徴です。

滋賀の福祉人研修は、滋賀県社会福祉研修センターの事業として、支援の知識や技術を支える基本となる支援者としての高い倫理観や価値観を有し、主体的に日々の福祉実践を行う人材育成を目指した研修プログラムです。保育、児童、障害、高齢など社会福祉に従事する全分野共通で取り組んでいます。

今年度より、滋賀の福祉人研修(全分野共通)の最終日に「ふく・楽CAFE」を取り入れました。特に新任職員について、所属組織以外の同期職員としてのつながりを広げ、これから共に支え合い、助け合う関係づくりをねらいとしています。コンセプトは、～福祉の職場で働く仲間と「ともに学ばん、ともに遊ばん、ともに生きなん」～です。リラックスした雰囲気で先輩職員の体験談を聞いたり、チーム対抗でゲームをしたり、交流の時間をメインとして、受講者のみなさんが一体感を感じることで研修となっています。

受講された皆さんは、分野や事業所・法人の垣根を超えてつながった「志を共にする仲間」です。滋賀の福祉人として一体となって歩んでいけるよう、今後もつながりが着実に続き、広がっていくためにサポートしていきます。

研修の最後にはアンケートに加えて、日頃の支援を通して困ったなぁと思うことや難しいと感じていること、また改善できるといいなぁと思っていることなど率直な思いを「気づきシート」に記入していただいています。貴重な現場の声は、今後の研修や本会の事業にいかして取り組んでいきたいと考えています。

〈受講者の声〉

受講者 Aさん

実際に先輩職員の方の話を聞いて、これからも頑張ろうという気持ちになりました。

受講者 Bさん

とても学びにつながりました。さまざまな福祉の方と学びを共有できて本当に貴重な時間となりました。

受講者 Cさん

多くの方とディスカッションでき、自分の知らない福祉分野の話も聞けてよかったです。またどこかで一緒にお仕事したいです。



(上)会場はカジュアルな雰囲気を演出
(下)和気あいあいとお話のできる機会です

滋賀県社会福祉協議会

新会長メッセージ



6月23日から会長に就任いたしました市川忠稔です。

少子高齢化の進行とともに人口構造も大きく変化する中で、お互いに助け合う人と人との「つながり」が弱まっている現状があります。こうした背景のもと、いよいよ人口減少社会に突入し、コロナ禍がいつそう拍車をかける形で、多くの方々が「孤独・孤立」を感じています。現実には厳しい生活に追い込まれている方々が増加している状況がまさに今日の私たちを取り巻く情勢でしょう。

しかし、こうした情勢のもとだからこそ、県内各地で地域の課題に気づき、優れた福祉実践が積み重ねられているのが「滋賀の福祉」の強みでもあります。これまで、滋賀県社会福祉協議会は、「滋賀の縁創造実践センター」として、さまざまな地域の実践者の皆さんと知恵を絞りながら、厳しい環境におかれている方々を支える独自の取り組みや公私連携の取り組みを進めてまいりました。

今、本会が求められているのは、現状を鋭く見つめて、これまでの取り組みを振り返り、「滋賀の縁」を時代の要請にこたえるものとして磨きをかけ、地域福祉の基盤をゆるぎないものにしていく不断の取り組みだと考えております。ともに歩む実践者の皆さんと福祉の価値を共有しながら、本会の理念である「ひたすらなるつながり」のもと、人間的共感にねざした共生社会を目指し、様々な福祉実践が重なり合うことで誰もが安心して暮らせる地域福祉を展開してまいりたいと存じます。

誰一人取り残さない社会の実現は、日々の地道な一つ一つの取り組みの積み重ねの先にあるものと私は思います。これからの世の中の動向にしっかりと目を向け、今、我々は何をすべきかということを常に考えながら、新たな課題へも果敢に取り組んでまいります。

あらためて、本会活動につきまして、さまざまなお立場から引き続きご支援・ご協力・ご助言を賜りますようお願い申し上げます。



NPO法人
Moms fun
代表
秋村 加代子さん

ふくし 福祉論壇 ろんだん

子どもは、社会の希望。子育ては、社会全体の幸福であってほしい。

今日も台所で夕飯の支度をしていると、次女がまだかまだかと催促するように、私の周りをニコニコくるくる回っています。そんな光景が我が家の日常。お腹が空いているのか、はたまたサボらないよう監視しているのか。言葉のない彼女の本当の気持ちはわかりませんが、ちょっとした顔の表情や行動でその気持ちを感じ取っています。そんな次女も今年で24歳。重度の知的障害と自閉症があります。産後4日目に医師からダウン症であることを告げられました。当時は今のようSNSで何でも即座に検索できる時代ではなかったので、ダウン症候群と見出しのある書籍を本屋で探し懸命に読んでいました。ところが書籍には医学的に難しい内容ばかりでますます不安になっていきました。幼少期は体が弱く入院を繰り返し、2つ上のお姉ちゃんとは違い、すべての成長がゆっくりだったので、上の子の育てよりも手がかかっていました。あの頃を振り返ると、子どもの障害を前向きに受け入れていたものの、思うようにいかない子育てに悩んだり、子どもの将来に不安を感じたりしていたように思います。そんな時、県の療育施設に通い始め、同時にダウン症の子をもつ親の会の方々との出会いがありました。そこで「悩んでいるのは自分だけじゃないんだ」と、孤独感から解放され気持ちがとても楽になったことを覚えています。やがて少しずつ周りにも目を向けられるようになり、自分ができることで「誰かの支えになれば」と、娘の小

学校入学を機に子育て支援の広場へお手伝いに行くようになりました。子育て支援の広場スタッフを経験した後、今から5年前にNPO法人Moms funを立ち上げました。そして今、子育て支援や自身の子育ての経験から感じることもあります。子育てが、個人や家庭内だけの問題だと思ってしまう人、「助けて」と言うことがいけないことと思っている人がいかに多いかということです。広場によく遊びに来ていた親子がいました。以後偶然ばったりお会いした際、幼稚園から不登校になり悩んでいるけれど自分ではどうしたらいいかわからない、と吐露されました。支援の広場ではいつもニコニコ笑顔の素敵なお母さんでしたが、その笑顔はなく沈んでおられる様子でした。子どもの実情を理解してもらえず、育て方を問われたり、心なく家庭の責任だと言われたりしてしまうこともある。そんな辛い経験から支援を諦めてしまう人も少なくありません。当事者の気持ちが最優先されるべきですが、声を上げなければ支援につながらない。そんな社会は果して子育てに優しい社会なのでしょうか。そんな湧き上がる疑問もあって、昨年、市内の子育て活動に尽力される団体と「地域主導型ネットワーク」をつくりました。子どもは、社会の希望です。子育ては、社会全体の幸福であってほしいと願っています。そして今日も我が家では、ニコニコくるくと幸せな時間が続いています。

令和5年度

<https://www.fukushihoken.co.jp>

ふくしの保険 検索

日本国内でのボランティア活動中のケガや賠償責任を補償

ボランティア活動保険



保険金額・年間保険料 (1名あたり) 団体割引20%適用済 / 過去の損害率による割増適用

プラン		基本プラン	天災・地震補償プラン	特定感染症重点プラン
ケガの補償	死亡保険金	1,040万円		
	後遺障害保険金	1,040万円(限度額)		
	入院保険金日額	6,500円		
	手術保険金	入院中の手術	65,000円	
		外来の手術	32,500円	
	通院保険金日額		4,000円	
	特定感染症		補償開始日から10日以内は補償対象外(*)	初日から補償
賠償責任の補償	地震・噴火・津波による死傷		×	○
	賠償責任保険金(対人・対物共通)		5億円(限度額)	
年間保険料		350円	500円	550円

*3月末までに契約手続きが完了し、前年度から継続して契約される場合は初日から補償します。

<重要>

- ◆ 基本プランでは地震・噴火・津波に起因する死傷は補償されません。
- ◆ 特定感染症重点プランでは中途加入の場合でも補償開始日より特定感染症が補償対象となります。
- ◆ 年度途中でご加入される場合も上記の保険料となります。
- ◆ 中途脱退による保険料の返金はありません。
- ◆ 途中でボランティアの入替や、ご加入プランの変更はできません。
- ◆ ご加入は、お1人につきいずれかのプラン1口のみとなります。

ボランティア行事用保険 (傷害保険、国内旅行傷害保険特約付傷害保険、賠償責任保険)

送迎サービス補償 (傷害保険)

福祉サービス総合補償 (傷害保険、賠償責任保険、約定履行費用保険(オプション))

● このご案内は概要を説明したものです。詳細は、「ボランティア活動保険パンフレット」にてご確認ください。●

団体契約者 社会福祉法人 全国社会福祉協議会

取扱代理店 株式会社 福祉保険サービス

〈引受幹事〉 損害保険ジャパン株式会社 医療・福祉開発部 第二課
TEL: 03(3349)5137
受付時間: 平日の9:00~17:00(土日・祝日、年末年始を除きます。)
この保険は、全国社会福祉協議会が損害保険会社と一括して締結する団体契約です。

〒100-0013 東京都千代田区霞が関3丁目3番2号 新霞が関ビル17F
TEL: 03(3581)4667
受付時間: 平日の9:30~17:30(土日・祝日、年末年始を除きます。)

〈SJ22-12223より抜粋して作成〉